

# 伊丹ルーテル教会主の復活主日礼拝

## 2021年4月4日

### 前奏：

#### 招きのことば：詩編 98 編 1-6 節

【賛歌】新しい歌を主に向かって歌え。主は驚くべき御業を成し遂げられた。  
右の御手、聖なる御腕によって 主は救いの御業を果たされた。  
主は救いを示し 恵みの御業を諸国の民の目に現し  
イスラエルの家に対する 慈しみとまことを御心に留められた。  
地の果てまですべての人は わたしたちの神の救いの御業を見た。  
全地よ、主に向かって喜びの叫びをあげよ。歓声をあげ、喜び歌い、ほめ歌え。  
琴に合わせてほめ歌え 琴に合わせ、楽の音に合わせて。  
ラッパを吹き、角笛を響かせて 王なる主の御前に喜びの叫びをあげよ。

#### 罪の悔い改めと赦しのことば：

**会衆：**私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。  
思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に  
罪人です。神様、本当にごめんなさい。私たちは祈ります。私たちが救うため あなたが  
お与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。  
(短い黙祷を持ちましょう)

**牧師：**何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・  
キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ  
務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお  
名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。アーメン。

#### 使徒信条

**われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。**

**われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。**

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、  
十字架につけられ、死して葬られ、  
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天に昇り、父なる全能の神の右に座したまえり。  
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだの  
よみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。**

## 祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。

あなたは私たちの罪を赦してあなたの子どもとするために、ひとり子であるイエス・キリストを私たちに与えてくださいました。イエス様は私たちにかわって十字架で死んで、私たちが思いのままに支配していた罪と死と悪魔の力に打ち勝ってくださいました。そして、私たちにいのちを与えるために3日目によみがえってくださいました。イエス様によって、私たちは正しく罪が赦されて、永遠のいのちをいただきます。心から感謝をいたします。

新型コロナウイルスの感染が拡大し身近に迫っています。今朝も対策をめぐらせ、動画配信なども用いながら、共に礼拝の恵みにあずかります。さらに緊張感を保ちながら、その中でも御手にゆだね確信をもって、平安に、またいのちあふれて歩む一日一日としてください。

この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

## 使徒書朗読：第Iコリント15章21-28節

死が一人の人によって来たのだから、死者の復活も一人の人によって来るのです。つまり、アダムによってすべての人が死ぬことになったように、キリストによってすべての人が生かされることになるのです。ただ、一人一人にそれぞれ順序があります。最初にキリスト、次いで、キリストが来られるときに、キリストに属している人たち、次いで、世の終わりが来ます。そのとき、キリストはすべての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。キリストはすべての敵を御自分の足の下に置くまで、国を支配されることになっているからです。最後の敵として、死が滅ぼされます。「神は、すべてをその足の下に服従させた」からです。すべてが服従させられたと言われるとき、すべてをキリストに服従させた方自身が、それに含まれていないことは、明らかです。すべてが御子に服従するとき、御子自身も、すべてを御自分に服従させてくださった方に服従されます。神がすべてにおいてすべてとなられるためです。

## 福音書朗読：ヨハネによる福音書20章1-18節

週の初めの日、朝早く、まだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓に行った。そして、墓から石が取りのけてあるのを見た。そこで、シモン・ペトロのところへ、また、イエスが愛しておられたもう一人の弟子のところへ走って行って彼らに告げた。「主が墓から取り去られました。どこに置かれているのか、わたしたちには分かりません。」そこで、ペトロとそのもう一人の弟子は、外に出て墓へ行った。二人は一緒に走ったが、もう一人の弟子の方が、ペトロより速く走って、先に墓に着いた。身をかがめて中をのぞくと、亜麻布が置いてあった。しかし、彼は中には入らなかった。続いて、シモン・ペトロも着いた。彼は墓に入り、亜麻布が置いてあるのを見た。イエスの頭を包んでいた覆いは、亜麻布と同じ所には置いてなく、離れた所に丸めてあった。それから、先に墓に着いたもう一人の弟子も入って来て、見て、信じた。イエスは必

ず死者の中から復活されることになっているという聖書の言葉を、二人はまだ理解していなかったのである。それから、この弟子たちは家に帰って行った。

マリアは墓の外に立って泣いていた。泣きながら身をかがめて墓の中を見ると、イエスの遺体の置いてあった所に、白い衣を着た二人の天使が見えた。一人は頭の方に、もう一人は足の方に座っていた。天使たちが、「婦人よ、なぜ泣いているのか」と言うと、マリアは言った。「わたしの主が取り去られました。どこに置かれているのか、わたしには分かりません。」こう言いながら後ろを振り向くと、イエスの立っておられるのが見えた。しかし、それがイエスだとは分からなかった。イエスは言われた。「婦人よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか。」マリアは、園丁だと思って言った。「あなたがあの方を運び去ったのでしたら、どこに置いたのか教えてください。わたしが、あの方を引き取ります。」イエスが、「マリア」と言われると、彼女は振り向いて、ヘブライ語で、「ラボニ」と言った。「先生」という意味である。イエスは言われた。「わたしにすがりつくのはよしなさい。まだ父のもとへ上っていないのだから。わたしの兄弟たちのところへ行って、こう言いなさい。『わたしの父であり、あなたがたの父である方、また、わたしの神であり、あなたがたの神である方のところへわたしは上る』と。」マグダラのマリアは弟子たちのところへ行って、「わたしは主を見ました」と告げ、また、主から言われたことを伝えた。

### **讚美歌 148 番**

1 すくいぬしは ハレルヤ よみがえりたもう ハレルヤ  
かちどきあげて ハレルヤ み名をたたえよ ハレルヤ

2. 十字架をしのび ハレルヤ 死にて死にかち ハレルヤ  
生きていのちを ハレルヤ ひとにぞたまう ハレルヤ

3. 主の死によりて ハレルヤ すくいはなりぬ ハレルヤ  
あまつつかいと ハレルヤ とともにぞうたわん ハレルヤ

**アーメン**

### **説教：「来て、見て、信じた」**

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

今日はイエス様が死人の中からよみがえってくださったイースター、復活祭の日曜日です。毎年、礼拝でイースターのご挨拶をしています。「ハレルヤ、イエス・キリストはよみがえられました」と言いますから、皆さんは、「ハレルヤ、イエス・キリストはたしかによみがえられました」とおっしゃってください。

牧師：ハレルヤ、イエス・キリストは、よみがえられました！

会衆：ハレルヤ、イエス・キリストは、たしかに、よみがえられました。

イエス様は金曜日に十字架につけられました。そしてその日を数えて3日目、つまり日曜日の朝によみがえってくださいました。イエス様がよみがえってくださったこと、これが歴史的な事実であることから、イースターは毎年日程が変わるように設定されています。最後の一週間はイスラエルの人々の過ぎ越しの祭りの週でした。それは当時は月の満ち欠けをもとにした太陰暦で祝われていたので、イースターは春分の日あとの最初の満月の日の次の日曜日と定められています。

そしてイエス様がよみがえってくださったことが聖書のメッセージの原点です。弟子たちはイエス様の復活の証し人として、エルサレムに集っていた人々に話しました。イエス様がよみがえられたので、弟子たちは恐れなく、喜びをもって世界中に出て行って教会をたてました。イエス様の福音を宣べ伝えたということで捕らえられ、ついに石打ちの刑に処せられた弟子もいました。そのなかで聖書の与えるゆるがぬ希望をいだいて、父なる神様の右におられるイエス様を見ながら「わが霊を御手にゆだねます」と命を与えていきました。

使徒パウロは、もしよみがえらなかつたイエス様に望みをおいていただけなら、わたしたちはほんとうにみじめです、といいます。よみがえられたからです。また、イエス様がよみがえっていないのなら、イエス様がよみがえったと言いつらすのは、神様がよみがえらせなかつた方をよみがえったと偽りをいっているのだからそれは不信仰です、とも言っています。使徒パウロは、よみがえられたイエス様が出会ってくださったことで生涯が変えられ、文化的、歴史的には聖書と無関係だった異邦人に復活したイエス様をのべつたえる使徒とされました。

イエス様がよみがえられていなかったとしたら、あきらめ、というのは賢い考え方かもしれません。私たちはみな、小さい子供のころには夢がありました。大きくなると世の中や自分がどんなものかわかってきます。普通、子どもころの大きな夢をあきらめます。はかない世界、弱い自分のありのままを受け入れて、すっきりとすべての望みをあきらめていきます。そして、地に足をつけた一皮むけた現実的な道が開けてきます。このようなあきらめは、イエス様がよみがえっていないなら、魅力的な生き方や考え方なのかもしれません。

また、イエス様が十字架で死んで罪を赦してくださったと信じて感謝していても、毎日の生活からくる疲れや不満がたまってくると、それどころではなくなって、この世の歩みは依然として苦しく、人生は甘くはないとあきらめなければならぬ、と自分に言い聞かせる人もいます。

しかし、イエス様はよみがえってくださいました。現実の厳しさに圧倒されて、夢をあきらめ、信仰の力を限定的に感じる私たちへの聖書のメッセージです。あきらめではなく、そこには復活のいのちがあります。

実際には、イエス様の弟子たちでさえ、イエス様がよみがえったということを理解できず、受け入れることができませんでした。なかなか信じるできませんでした。私たちと同じです。そのもやもやを打ち破ってくださったのはイエス様の方です。イエス様は弟子たちに何度も現れてくださって、ご自分がよみがえられたことをお示しになりました。やがて弟子たちは、よみがえってくださったイエス様とお出会いしたことで新しい喜びと力を得て、あきらめることなく、いのちがけの宣教の生涯を送っていったのです。

毎年イースターをお祝いしてきたが、実のところまだもうひとつピンとこないと感じている心に、今朝、イエス様が出会ってくださいます。私たちの罪をかわりに担って、私が裁かれなように神様のさばきを身代わりになって受けて死んでくださったイエス様は、墓の中にとどまっています。ご自分の死によって死の力に打ち勝ってくださったのです。救いのみわざを完成されたあと、イエス様はよみがえってくださいました。クリスチャンは罪赦されて神の子とされただけでなく、その罪を赦してくださった方が復活して生きておられると信じる信仰によって生かされています。

今朝読まれた聖書を見てください。日曜日の朝にイエス様の葬られているお墓にいったマグダラのマリヤは、墓が空っぽになっているのを見て、だれかがご遺体を運び去ってしまった、と絶望して呆然となりました。弟子たちを呼びに行き、また墓に戻ってきましたが、弟子たちが帰った後も涙が止まりませんでした。そのマリヤに、捜している方向ではなく、後ろから、なぜ泣いているのですか、だれを捜しているのですか、とイエス様があらわれてくださいました。それなのに、マリヤはそれがイエス様だとは気づきません。ようやく、マリヤ、と名前を呼んでくださったことで、ちょうどよい羊飼いの声を羊が聞き分けることができるように、マリヤは、あ、イエス様だ、と気づいて、とっさに、ラボニ、と答えました。復活のイエス様とお出会ってきたのです。

福音書によりますとマグダラのマリヤという人は、かつて7つの悪霊に悩まされていたところをイエス様に助けていただいて以来、12人のお弟子たちといっしょにイエス様につき従って、一行のお世話をしてきた方です。十字架の刑罰を受けているイエス様のそばにいて、息をひきとるところにも立ち会っていました。

イエス様はご自分がよみがえられたことに気づかないマリヤに、わたしはあなたの罪の赦しを完成して、よみがえったのだ、なぜ泣いているのか、誰を捜しているのか、と言われます。ついに、よみがえられたイエス様に自分の名前を呼んでいただいたマリヤは、はっと気づきました。ラボニ、と答えました。

そしてマリヤはイエス様に、わたしにすがりついてはいけな、と言われました。イエス様は今から父なる神様のみもとに帰って、そこから聖霊を送ってくださいます。マリヤや私たちにはそのようにして、イエス様がともに歩んでくださることを教えています。また、すがりつい

たままでいけないのは、マリヤはすぐに使命に生きるようになるからです。今はイエス様のことばを聞き、イエス様とひとつにされ、イエス様のからだをいただいて、私たちは死んでよみがえってくださったイエス様がいてくださることを信じています。そして、使命が与えられています。イエス様のもとに来て、イエス様と出会い、イエス様を信じたマリヤ、来て、見て、信じました。このマリヤはイエス様に、兄弟たちのところに行って、見たことを、話さない、と言われました。まだ不安の中にいる弟子たちに、ハレルヤ！イエス様はたしかによみがえられました、と伝えなさい、と言われたのです。

これらのことは週のはじめの日に起こりました。これは詳しく知ると大きな意味があることです。かつて神さまは天地のすべてを6日でつくりました。7日目に休んだとき、ご自分のなされたみわざをふりかえって、よしとされたのです。イエス様は日曜日のエルサレム入城から金曜日まで、苦しみを受け、十字架につけられて私たちの罪をかわりに背負って死なれました。私たちの救いを完了してくださったのです。そして、土曜日は安息の日です。イエス様は罪と死と悪魔に勝利されました。そして週の初めの日に、イエス様は復活されました。新しい命によみがえりました。救この世を新しく作り直すことをはじめました。それは再創造です。

日曜日の朝に礼拝をするのは、イエス様のよみがえりを覚えて、今週もイエス様を信じて、あきらめないで生きなおしていくためです。あなたの罪の赦しは十字架で完成している。だから復活のイエス様のいのちをいただき、あなたは今日から新しい一週を歩みます。イエス様に名前を呼ばれます。あきらめではなく、やりなおしがきくということです。あきらめではなく、イエス様があたらしい現実をつくってくださるということです。あきらめではなく、よみがえったイエス様にいただいた新しいいのちを生きていくということです。あきらめではなく、これからがある、ということです。

よみがえりのイエス様が私たちに会ってくださいました。イエス様が共にいてくださることを信じて歩むその歩みは証しになります。なにごとによみがえってくださった主イエス様の名前によって行うその歩みによって、私たちはイエス様を証していることになります。泣いていない、輝いている、あきらめていない、使命に生きている、人生ははかないものだときとったような気分になっていません。復活のイエス様を信じる私たちは、人は死んだらなくなってしまうむなしなものではなく、死の向こうにさらに人格をもってあなたを呼び、あなたが呼ぶ、究極的な天国の歩みがあること、そして今からイエス様とともにその歩みを始めているのです。

教会はイエス様の復活の証し人として福音を伝えてきました。よみがえったイエス様はあなたに出会ってください。それがイースターです。イエス様は何度も弟子たちに現れました。ユダヤ人をおそれて集まっていたときも、そこに現れて下さいました。イエス様は不安な時、がっかりするとき、おちつかないときに現れて共にいてくださいます。あなたを取り巻く世界がど

んなにむなしくても、自分でがんばる力がなくてあきらめるしかない、と思うときも、生きる希望があります。復活が原点です。再創造が原点です。

祈りましょう。「愛する天のお父様、イースターの恵みを感謝いたします。来て、見て、信じました。今週もよみがえってくださった主イエス様とともに新しいいのちを歩みます。行って、見たことを、伝えます。主イエスの名前で祈ります。アーメン」

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくださいます。アーメン。

牧師：ハレルヤ、イエス・キリストは、よみがえられました！

会衆：ハレルヤ、イエス・キリストは、たしかに、よみがえられました。

### 讃美歌 147 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 喜びたたえよ、主は死に打ち勝ち、陰府(よみ)より帰りぬ ハレルヤ ハレルヤ ハレルヤ
2. 勝利(かち)の主迎えて たたえの花束 み前にささげよ ハレルヤ ハレルヤ ハレルヤ
3. 今日よりときわに 尽きせぬいのちは、この世を潤さん ハレルヤ ハレルヤ ハレルヤ
4. いのちの主をほめ、もろごえあわせて この日をたたえよ ハレルヤ ハレルヤ ハレルヤ  
アーメン

### 主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

### 頌栄：讃美歌 543 番

主イエスの恵みよ 父の愛よ 御霊の力よ ああみ栄よ **アーメン**

### 祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。 **アーメン**

### 後奏